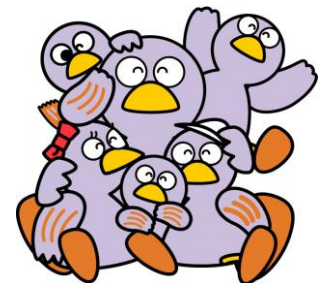


年度	総会・研修会等	その他の動き
1977(昭52)	<p>●総会（5月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席者 61名 ・協会内の研修およびブロック活動の強化、日本協会と歩調を合わせた資格制度確立への取り組みに重点をおく ・会費を1,000円から2,000円に改定する ・役員改選 <ul style="list-style-type: none"> 会長 丸木清美氏 副会長 田島剛氏 副会長 五十嵐康雄氏(県保健予防課長) ・記念講演 <ul style="list-style-type: none"> 「現在の社会福祉の動向と医療社会事業」 講師 重田信一氏(明治学院大学教授) <p>●研修会（5月）</p> <p>講演 「精神障害者社会復帰施設 やどかりの里 の実践」 講師 谷中輝雄氏(やどかりの里)</p> <p>●県精神衛生センター主催の研究会に参加（6月）</p> <p>①精神衛生事例研究会 テーマ 「肺結核とアルコール中毒を合併している患者の家族援助」 助言者 小野哲郎氏(明治学院大学)</p> <p>②同センター主催の精神衛生研究会 「ことばの遅れを主訴とする相談」に参加 助言者 上林靖子氏(国立国分台病院)</p> <p>●研修会（8月）</p> <p>講演 「生活保護法の適用と他法の関係」 講師 大塚健司氏(県老人福祉課) ※保護率 全国12%、埼玉県6.1%</p> <p>●宿泊研修会（11月）</p> <p>①施設見学 「国立療養所久里浜病院」</p> <p>②事例研究会(県断酒会高沢会長の参加を得て) 事例提供者 中田薫氏、三浦健二氏</p> <p>③講演 「アルコール中毒症のケース及び治療」 講師 田中孝雄氏(国立療養所久里浜病院) ※講演前にミーティング(患者の体験発表)に出席</p> <p>●精神衛生センター主催の精神衛生研究会（12月）</p> <p>テーマ 「アルコール中毒の症状と病理」 「アルコール中毒の治療と断酒グループ活動」 講師 三船英男氏(国立武蔵療養所) 斎藤学氏(慶応義塾大学)</p>	<p>・協会設立20周年記念誌を発行</p> <p>・「MSWさいたま」7、8、9号を発行</p> <p>・ブロック研修会開催 東南部ブロック 3回 西部ブロック 1回 北部ブロック 2回</p> <p>・関東ブロック協会長会議開催 野口理事が代理出席</p> <p>・日本SW協会関東セミナーが秩父市で開催 MSW10名を含む65名が参加</p> <p>※昭52.8.1 年金関連法の改正 障害年金の障害認定日が3年から1年6か月 に短縮、事後重症者制度の創設</p> <p>※昭53.1.1 健康保険法の改正 本人の初診時負担が200円から600円に、入院 時一部負担は1日60円から200円に引き上げ、傷 病手当金の支給期間が6か月から1年6か月に延 長</p>
1978(昭53)	<p>●研修会（4月） ※昭52年度事業として実施</p> <p>講演 「心氣的訴えの強い患者の援助」 講師 広瀬徹也氏(帝京大学)</p> <p>●総会（5月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席者 58名 ・昨年に引き続き地区活動の強化、資格制度確立への取り組みに重点をおく 	<p>・ブロック研修会開催 東南部ブロック 4回 西部ブロック 1回 北部ブロック 1回</p> <p>・「MSWさいたま」10、11号発行</p> <p>・日本協会発行の資格制度化に関する検討資料 及び制度化運動の手引書を100部増刷し会員に 配布</p>



コバトン

- 研修会 (5月)
 - 講演 「健康保険制度改定をめぐる諸問題」
 - 講師 一圓光弥氏(国立公衆衛生院)
 - 研修会 (10月)
 - 講演 「老人福祉を考える」
 - 講師 石井岱三氏(名栗園施設長)
 - 小沼一郎氏(県老人福祉課)
 - ※日本人の平均寿命…男性 72.69歳(世界1位)、女性 77.95歳(世界2位)
 - ※埼玉県の60歳以上の人口は45万人で全体の8.1%、寝たきり老人は6,000人
 - 研修会 (3月)
 - ①講演「患者の心理について」
 - 講師 川村佐和子氏(名栗園施設長)
 - 事例提供 富樫八郎氏 「脊損患者(焼身自殺)ケース」
 - ②講演 「インテーク面接について」
 - 講師 阪上裕子氏(国立公衆衛生院)
 - 事例提供 持田裕美氏 「精神分裂病患者の処遇をめぐる」
- ・日本協会25周年記念大会が横浜で開催され、田島剛氏、草薙徳子氏が受賞(全国52名)
 ・日本協会25周年記念誌が発行される (1部1,500円)
 ・医療福祉職制度化推進全国集會に参加、資格制度化運動募金及びカンパを日本協会に送金
 ※短期入所生活介護(ショートステイ)事業の創設

1979(昭54)

- 総会 (5月)
 - ・出席者 会員94名中、63名出席
 - ・前年度の活動方針を引き継ぐ理事の改選を行う
 - 会長 丸木清美氏
 - 副会長 田島剛氏
 - 副会長 渋谷隆氏(県保健予防課長)
 - ・来賓として出席された日本協会の大塚副会長から資格制度化運動についての経過説明
 - 研修会 (5月)
 - 講演 「医療ソーシャルワーカーの課題について」
 - 講師 山手茂氏(茨城大学)
 - 宿泊研修会 (10月)
 - ①講演 「ケースワークにおける専門的援助とは何か」
 - 講師 松本武子氏(日本女子大学)
 - ②分科会(夜間)、「業務日報・月報の様式」について検討
 - ③事例研究 「退院を不安がる老人のケース」
 - 事例提供者 原田一九子氏
 - 助言者 松本武子氏(日本女子大学)
 - 研修会 (3月)
 - ①講演 ① 「医療チームにおけるMSWの役割について」
 - ② 「CVA患者のチェックリスト」
 - 講師 高田玲子氏(関東通信病院)
 - ②事例研究 「手塩にかけた主人の社会復帰」
 - 事例提供者 富樫八郎氏
 - 助言者 高田玲子氏(関東通信病院)
- ・ブロック研修会開催
 東南部4回、西部1回、北部2回
 ・「MSWさいたま」12、13号発行
 ・日本協会の大会が札幌市で開催される
 県協会選出理事として中田薫氏、細川美佐子氏を推薦
 ・日本協会の「MSWの教育研究体制確立のための請願」が衆議院で採決される
 ※「厚生行政基礎調査報告」(厚生省大臣官房統計情報部編)―「寝たきり老人」に関する統計的把握が開始される

1980(昭55)

- 総会 (5月)
 - ・出席者 会員96名中、67名出席
 - ・会費を2,000円から3,000円に改定する
 - 研修会 (5月)
 - 講演 「社会事業に生きた女性たちを支えたもの」
 - 講師 林千代氏(淑徳短期大学)
- ・ブロック研修会開催
 東南部5回、西部2回、北部2回
 ・「MSWさいたま」14号発行
 ・日本協会の大会が東京「労音大久保会館」で開催

- 研修会（9月）
講演「日野市の地域医療の実践について」
講師 池上洋通氏（日野市企画財政部）
- 施設見学（9月）
・「国立身体障害者リハビリテーションセンター」（1979.7.1設立）
・「国立職業リハビリテーションセンター」（1979.7.1設立）
※2008.10.1「国立身体障害者リハビリテーションセンターは
「国立障害者リハビリテーションセンターへ名称変更」
- 新人研修会（10月）
・経験3年未満の会員を対象に、資質の向上と交流を深めることを目的として、2日間開催。講師は会員を中心に担当
①「社会資源の活用」 平山雅康氏
②「地域医療とMSW」 柳下礼子氏
③「MSW業務の実際」 岡安茂子氏
④「他機関との連携」 石田功氏（戸田市福祉事務所）
⑤「医療社会事業協会活動」 中田薫氏
- 現任研修会（10月～3月）
・経験3年以上の会員を対象に、資質と技術の向上を目的として、月1回開催。助言者は小松源助氏（日本社会事業協会）
- 研修会（11月）
講演「80年代の医療福祉の展望」
講師 大野勇夫氏（淑徳大学）

- 研修会 事例研究（3月）
①「老人患者の退院時調査について」
提供者 小笠原トヨ氏、清水典子氏
②「退院後の老人の生活の場をどう確保するか」
提供者 広瀬久子氏、井出亮氏
助言者 斉藤次子氏（東京都療育院附属病院）

・「腎臓病の患者を守る会」の相談事業に会員を派遣する

・12月県議会に請願資格制度確立運動の一環として行うもので、そのために署名運動(4,716名)を展開し、日常の相談業務内容を集約する

「医療ソーシャルワーカーの資格の制度化促進についての意見書提出等に関する請願」

<要旨>

- I 国の医療福祉施策に対する意見表明
国に対して医療福祉制度化を要請する
意見を表明していただきたい（採択）
- II 県の施策への請願
(1) すべての保健所及び県立医療機関に
専任の医療ソーシャルワーカーの配置
について努力されたい（審議未了）
(2) すべての自治体病院・公的病院に
専任の医療ソーシャルワーカーの配置
について指導されたい（審議未了）
(3) その他医療社会事業の推進に必要な
措置を講じていただきたい（採択）

※厚生省「老人保健医療対策本部」設置。老人保健法の法案作りが開始される。（同法は1982年成立、1983年施行され、老人医療費が有料化された）

1981(昭56)

- 総会（5月）
・出席者 会員100名中、65名出席
・ブロック活動は今までどおり独自に実施する
・関連団体との連携を強める
・県補助金が10万円から20万円となる
・理事改選（互選により選任）
会長 丸木清美氏
副会長 田島剛氏
副会長 梶島和子氏（県保健予防課長）

- 研修会（5月）
講演「リハビリテーションにおけるチームアプローチ」
講師 近藤徹氏（埼玉医科大学）

- 月例事例研究会（9月～12月）
①「先天性無痛・無汗症と股関節脱臼の子供のケース」
提供者 高本雅夫氏
②「脳内出血後遺症の青年に対する援助」
提供者 池田純子氏
③「神経症患者とのかかわりについて」
提供者 佐藤喜恵子氏
④「熱傷2度・入院拒否する患者の事例」
提供者 富樫八郎氏

- ・ブロック研修会開催 北部2回
- ・「MSWさいたま」15号発行
- ・「会員名簿」発行
- ・事例集「医療福祉の実際—医療ソーシャルワーク事例集 I」発行
- ・公的病院に対してMSWの設置依頼
- ・会長との懇談会
MSW配置の取り組みについて、田島副会長、岡安理事、野口理事が懇談
- ・県保健予防課長との懇談会

役員等11名が出席し、埼玉県におけるMSWの歴史、現状と資格制度化について懇談

・日本協会の大会（第1回日本医療社会事業学会）が鹿児島県で開催される

「MSWの財源保障に関する請願」が国会で不採択となる

・日本協会から要請のあった、会費徴収・制度化推進PRの各協力委員を選出

- 宿泊研修会（9月）
 - ・出席者31名、会場「フレンドシップセンター」
 - ①講演 「ソーシャルワークの機能」
 - ～現在の医療システムの中での機能と地域医療統合化計画の中での方向性～
 - 講師 小松源助氏(日本社会事業大学)
 - ②講演 「医学知識基礎講座」 ～検査データ・カルテの見方～
 - 講師 塩原雄二郎氏(深谷赤十字病院)
 - ③事例研究 「社会資源利用でできた社会復帰」
 - 提供者 影山峰子氏
 - ④事例研究 「交通事故による障害者への援助」
 - 提供者 柳下礼子氏
 - ⑤分科会(夜間) 「業務の中で困っている問題について」

※国際連合「国際障害者年」（1976.12.16 国連総会において1981年を「国際障害者年」と宣言）

- 研修会 ※精神衛生センター主催（3月）
 - 講演 「うつ病とその周辺」
 - 講師 花井諦二氏(埼玉医科大学)

※「母子及び寡婦福祉法」成立（1964年制定の「母子福祉法」から改正、2014年に「母子及び父子並びに寡婦福祉法」に改正）

- 施設見学、研修会（3月）
 - ・「埼玉県障害者リハビリテーションセンター」(1982.3月開所)
 - ※1994年3月「埼玉県総合リハビリテーションセンター」へ名称変更
 - 講演 「医学的リハサービスの流れ」
 - 講師 五味重春氏(埼玉県障害者リハビリテーションセンター)

1982(昭57)

- 総会（5月）
 - ・出席者 会員107名中、58名出席
 - ・地域の医療機関・保健所との連携を強める
- 研修会（5月）
 - 講演 「行政改革と医療福祉実践」
 - 講師 西岡幸泰氏(専修大学)
- 宿泊研修会（9月）
 - ・出席者26名、会場「国民宿舎・入間グリーンロッジ」
 - ①講演 「社会福祉と貧困」
 - ～生活実態とソーシャルワーカーの課題～
 - 講師 江口英一氏(中央大学)
 - ②講演 「ケースワークの面接技術」
 - 講師 山崎道子氏(日本女子大学)
 - ③事例研究 「在宅から老人ホーム入所までの援助にあたって」
 - ～MSWの援助とチームワーク医療～
 - 提供者 野口純子氏
 - ④事例研究 「全盲夫婦の出産」
 - 提供者 中沢文子氏
- 研修会（2月）
 - 講演 「ケースワーカーの定着を図って」
 - 講師 小松智世氏(太田総合病院<福島県>)

- ・ブロック研修会開催
 - 東南部4回、西部1回、北部3回
- ・「MSWさいたま」
 - 16、17、18、19号発行
- ・埼玉県主催「健康と美の祭典」(越谷コミュニティセンター、12月1日～5日開催)に協会として参加、パネル・チラシ写真により普及啓もうを図る
- ・日本協会の大会が静岡県で開催される
 - 埼玉県から10名参加
- ・医療社会事業従事者講習会(厚生省開催)
 - 埼玉県から3名参加(該当会員の施設長宛てに派遣依頼をする)
- ※「パークレー報告」(英)
 - コミュニティ・ソーシャルワークの推進を宣言
- ※「障害者対策に関する長期計画(1983年度-1992年度)」が策定される
- ※「老人保健法」施行(S58.2.1)
 - 老人医療を社会保険化および有料化

1983(昭58)

- 総会（5月）
 - ・出席者 会員111名中、69名出席
 - ・保健所等関係機関との連携を強める
 - ・役員改選
 - 会長 丸木清美氏
 - 副会長 田島剛氏
 - 副会長 谷口隆氏(県保健予防課長)

- ・ブロック研修会開催
 - 東南部4回、西部4回、北部3回
- ・「MSWさいたま」
 - 20、21、22号発行
- ・「健康まつり」(県内4ブロックの保健所<加須・川越・中央・行田>を中心に開催)に協会として初参加、普及啓もうを図る

- 研修会（5月）
講演「医療福祉の動向」
～ケースワーカーの資格制度をめぐる～
講師 阪上裕子氏(国立公衆衛生院)

・「腎臓病友の会」「てんかん協会」の相談活動に協力する

- 研修会（7月）
講演「老人の保健・医療」
～東京白十字病院での取り組みから～
講師 大倉透氏、島田妙子氏(東京白十字病院)

・日本協会の大会が高知県で開催される
県選出の理事として持田裕美氏、弘美郁子氏を推薦する

- 施設見学（9月）
・「埼玉県立小児医療センター」(1983.4.1開設)

・医療社会事業従事者講習会
埼玉県から5名参加

- 宿泊研修会<新人研修会>（11月）
・出席者18名、会場「フレンドシップセンター」
講師は協会員が中心となって担当
- ①「社会資源の活用」 平山雅康氏
- ②「県協会の歴史と現状」 岡安茂子氏
- ③「職場における人間関係」 グループディスカッション
- ④「面接技術」 岡安茂子氏
- ⑤「医療をめぐる状況」 野口純子氏
- ⑥「医学知識」 塩原雄二郎氏(深谷赤十字病院)

・日本協会主催「第3回 中堅医療ソーシャルワーカー研修会」 県協会から1名参加

- 研修会<精神衛生協会主催>（2月）
講演「現代の家族と心の健康」
講師 小此木啓吾氏(慶応義塾大学)

- 宿泊研修会（3月）
・出席者21名、会場「別所沼会館」
- ①講演「ソーシャルワークプロセスについて」
～医療ソーシャルワーカーの現状と課題～
講師 斉藤安弘氏(獨協医科大学)
- ②講演「地域精神医療への組織づくり」
講師 佐々木タカ氏(新潟東保健所)

※「社会福祉事業法」改正により、市町村と特別区の社会福祉協議会が法制化される

1984(昭59)

- 研修会（4月） ※前年度事業として実施
講演「社会保障の動向」～年金改革の問題点と今後の動き～
講師 渡辺清氏(渡辺社会保険労務士事務所)

・ブロック研修会開催
東南部4回、北部3回
・「MSWさいたま」
23、24号発行
・「医療福祉実践」講演集(Ⅰ)発行

- 総会（5月）
・出席者 会員121名中 67名出席
・会員の拡大、資質および専門性の向上に重点をおく
・皆川修一氏(日本協会副会長)が来賓として出席

・「健康まつり」(県内4ブロックの保健所<春日部・飯能・戸田・蕨・本庄>を中心に開催)に参加、普及啓もうを図る

- 研修会（5月）
講演「MSWの資格制度をめぐる」
講師 皆川修一氏(日本協会副会長)

・全国肝臓病患者連絡会議埼玉支部大会に会員を派遣する

- 新人研修会（8～11月）
・経験1年未満の会員を対象に、日常的ひ必要とされる基礎知識及び技術の習得を目的とし、講師は協会員が担当し実施した。
- ①「県協会の歴史及び現状について」 岡安茂子氏
- ②「日常業務について」 平山雅康氏
- ③「インテーク面接について」(事例) 鈴木信夫氏
- ④「社会資源の活用について」 中田薫氏

・日本協会の大会が栃木県で開催される
総会議決事項が否決され臨時総会を開催、大会予定を一部変更「特別報告会」～報徳会宇都宮病院をめぐる～と題して事実経過の報告と医療ソーシャルワーカーの立場から見た問題点が討論された

※「宇都宮病院事件」(1983)、患者2名が病院職員の暴行によって死亡した事件、精神医療の根本的改革のきっかけとなった

- 施設見学（10月）※学生サークルとの合同見学
 - ・「東京都療育院附属病院・東京都板橋ナーシングホーム」
 - 講演 「療育院の機能と役割」
 - 講師 奥川幸子氏(同病院医療ソーシャルワーカー)
 - ※「東京都療育院附属病院」、昭和61年「東京都老人医療センター」に名称変更後、平成21年「東京都老人総合研究所」と統合し「東京都健康長寿医療センター」に名称変更
 - 「東京都板橋ナーシングホーム」、平成27年3月廃止

- 埼玉県ケースワーカー協会との合同研修会（10月）
 - ・共に12名出席、意見交換を行う
 - ・テーマ 「MSW・社会福祉主事の機能・役割は果たされているか」

- ・第35回 医療社会事業従事者講習会
- 埼玉県から3名参加

- 宿泊研修会（12月）
 - ・会場は毛呂山町の民宿「啓明荘」
 - ・テーマ 「病院における医療福祉相談室の現状と課題」
 - 講師 橋高通泰氏(兵庫医科大学附属病院)
 - 内容 同病院医療福祉相談室のあゆみ、MSW業務の分類と検討、MSW業務の課題と展望

- ※「健康保険法」改正、自己負担が2割(1996年までは1割)となる

- ※「特定療養費制度」創設

- 研修会（2月）
 - 講演 「MSWの専門性を考える」
 - ～MSWの対象規定及び方法技術について～
 - 講師 窪田暁子氏(東京都立大学)

- ※「退職者医療制度」(国庫負担なし)が創設される

1985(昭60)

- 総会（5月）
 - ・出席者 会員134名中 85名出席
 - ・研修活動を通じて関連領域の人々との連携を深める
 - 昭和61年度からの会費を3,000円から5,000円に改定する
 - ・理事(役員)改選
 - 会長 丸木清美氏
 - 副会長 田島剛氏
 - 副会長 塩野幸子氏(県保健予防課長)

- ・ブロック研修会開催
- 東南部3回、西部1回、北部3回
- ・「MSWさいたま」25号発行

- ・「健康まつり」(県内4ブロックの保健所<草加・東松山・大宮・深谷>を中心に開催)に参加、MSWの需要度についてアンケート調査を実施(回答302件)、98%が必要性を感じているとの回答を得る

- 研修会（5月）
 - 講演 「転換期にたつ社会福祉」～中間施設について～
 - 講師 斉藤正男氏(特別養護老人ホーム 真寿園)

- ・「腎臓病友の会」の行事に会員2名を派遣する

- 施設見学（9月）
 - ・「埼玉医科大学総合医療センター」(1985.6.14開設)
 - ①講演 「埼玉医科大学総合医療センターの機構と活動」
 - 講師 丸木清美氏(埼玉医科大学理事長)
 - ②講演 「人工腎臓血液透析療法について」
 - 講師 磯田和雄氏(埼玉医科大学教授)

- ・仮称「医療福祉相談会」の第1回準備実行委員会を開催する

- ・日本協会の大会が岩手県で開催される

- 新人研修会（9～11月）
 - ・講師は協会員が担当
 - ①「医療ソーシャルワーカーの業務」 富樫八郎氏
 - ②「県協会の歴史及び現状」 岡安茂子氏
 - ③「事例研究」(事例提出) 野口純子氏、鈴木信夫氏

- 宿泊研修会（11月）
 - ・会場は「別所沼会館」、参加者24名
 - ・テーマ 「ファミリーソーシャルワークの実践」
 - 講師 福山和女氏(日本社会事業大学)
 - 臼田美智子(慶応義塾大学附属病院)

- 第1回 医療社会事業研究発表会（3月）
- ・出席者45名
- ・テーマ 「埼玉県医療ソーシャルワークの充実をめざして」
～日々の援助活動をかえりみる～
- ・演題提出 10題
- ・講演 「患者・家族問題とMSWの役割」
講師 山崎美貴子氏(明治学院大学)

※「男女雇用機会均等法」、「勤労婦人福祉法」
から改正

※年金制度改正
基礎年金の創設、障害基礎年金の創設

※「第1次医療法改正」

③設立20周年から設立30周年まで 昭和52～60年度